

# 「平成30年度安全大会」を開催 事故災害ゼロ件達成

## 出雲テック(大阪)



本城社長

6日、大阪市北区のコートヤードバイマリオット新大阪ステーションで「平成30年度安全大会」を開催した。ファブや現場関係者、鋼材特約店副資材メーカーなどを含む約40名が参加した。冒頭、本城社長は「足元の仕事は非常に忙しく、好調な環境だ。しかし、工程のずれや納期のトラブルなどが生まれやすく、出雲テックでは連絡調整に注力して、円滑な事が行われるよう取り組んでいる」と概況を述べ、続いて「昨年度は事故災害ゼロ件を達成することができ、皆様に感謝を申し上げたい。事故災害

鉄骨構造物の設計・施工などを主業務とする出雲テック(大阪市北区芝田2-17、本城俊成社長)は



ファブや現場関係者ら約40名が参加

## 新都市ハウジング協会

### 「30年度調査研究発表会」を開催

#### CFT造普及活動成果などを報告

新都市ハウジング協会(略称・ANUHT、会長 河野晴彦・大成建設専務執行役員)は6日、東京・西新宿の大成建設大会議室で「平成30年度調査研究発表会」を開いた。昨年度までの活動成果報告、特別講

演、CFT構造賞の選考表 彰報告などを行った。開会にあたり白井清広専務理事は「活動成果を広く公表し、共有していただくための重要な会と考えている。今後とも住宅建築技術の高度化、技術水準向上のための活動を行っていく」とあいさつした。

業界関連ではCFT造普及委員会の依田博基委員長(久米設計)が昨年度の活動として、施工管理技術者講習会の開催、CFT造技術指針の改訂、施工DVDの改訂などを報告した。また、昨年度作成したCFT構造についての紹介ビデオを

休憩時間に上映した。このほか、都市居住研究設備システム、建築基礎、住棟インフラ整備など各分野の報告が行われた。特別講演は建築研究所の緑川光正理事長が「地震防災を改めてふりかえる」と題して▽地震被害と法令等の変遷▽近い将来発生が懸念される巨大地震▽地震防災の温故知新——などについて講演した。

## 適正加工賃への影響を懸念

### 「次世代へ残すための事業を」

#### 全国ビルトH工業会・西日本支部が総会

全国ビルトH工業会・西日本支部(支部長 岡田直矢・徳機製作所社長、会員数15社)は5日、福岡市内のTKP会議室で今年度総会を開催し、今年度事業計画、予算など全議案を承認した。

岡田支部長は「ビルトH形鋼の需要量が旺盛ななか、母材や溶接資材などの値上がりから適正加工賃への影

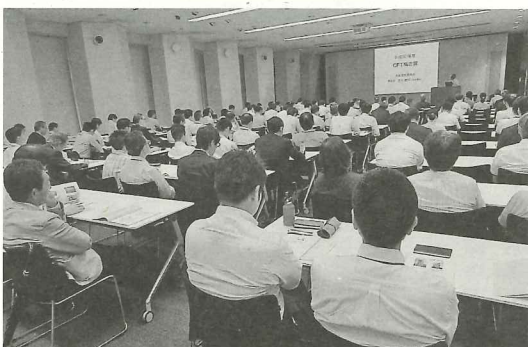
響が懸念される。業界として、取り組むべき課題は多いが、次世代へ残すためのいろいろな事業に取り組んでいきたい」とあいさつした。



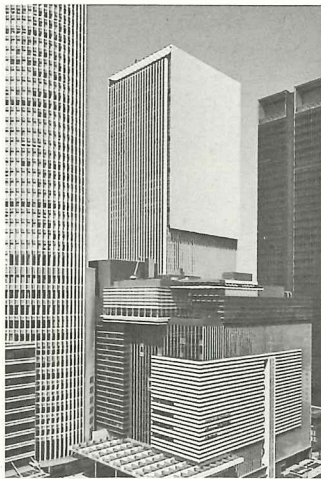
総会のもよう

今年度の事業活動では①溶接H形鋼製作工場認定制度のさらなる認知および広報活動②運営、技術、市況、広報ほか委員会活動の推進③品質保証体制の確立④サブマージアーク溶接50度開先標準化に向けた活動⑤HPの充実——などを重点的に実施していく。

また、昨年度作成したCFT構造についての紹介ビデオを



昨年度までの活動成果を報告



CFT造の特徴を活かして複合超高層ビルなどに採用されている(写真は30年度CFT構造賞を受賞したJRゲートタワー)。写真提供:東海旅客鉄道株式会社

①CFT造の特徴と適用  
CFT造とはコンクリート充填鋼管 (Concrete Filled Tube) のハブ、多軸拘束効果により、圧縮耐力・韌性に優れる。熱容量が大きく、耐火性能が高い。大スパン、長柱、途中階で柱切り替えができるなどの特徴を活かして、事務所・商業施設・居住などの複合用途に使用される超高層ビルをはじめ、病院、学校、倉庫等に採用されることが多い。

②建築基準法、当協会と実務  
1985年の建設省(当時)「新都市型集合住宅システム開発プロジェクト」でCFTは応募構造技術のひとつだった。96年に普及と事業化の求めに、当協会が設立された。当初は基準法上、「特殊な

新都市ハウジング協会(略称・ANUHT、会長 河野晴彦・大成建設専務執行役員)が6日に都内で開いた平成30年度調査研究発表会では、建築基準法など各分野の発表があった。そのなかからCFT造普及委員会の依田博基委員長(久米設計)による同委員会活動報告の概要を紹介する。

### CFT造普及委員会の取り組み紹介 特徴を活かし超高層ビルなどで採用増加 新都市ハウジング協会

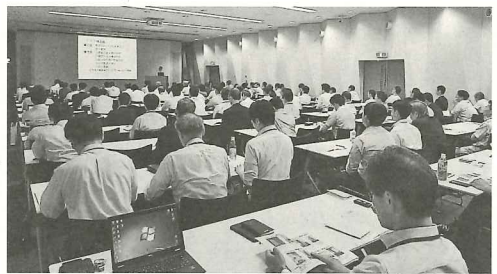
当協会では品質確保を図り▽施工会社の施工技術力の認定・登録▽施工管理技術者の認定制度——を実施している。

③平成29年度活動報告等  
CFT構造賞は今年10件が受賞した。選考は建築計画・意匠設計、構造計画・構造設計、耐火設計等の性能設計、部材製造・施工、普及貢献の5項目で採点する。

構造設計上の留意点として設計時に充填工法を決定しておくことなどがあり、「指針適合」の技術指導を行っている。耐火設計の実務については「耐火設計指針」のつと技術指導をしている。施工技術の難易度が高いため、当協会では品質確保を図り▽施工会社の施工技術力の認定・登録▽施工管理技術者の認定制度——を実施している。

留意点として設計時に充填工法を決定しておくことなどがあり、「指針適合」の技術指導を行っている。耐火設計の実務については「耐火設計指針」のつと技術指導をしている。施工技術の難易度が高いため、当協会では品質確保を図り▽施工会社の施工技術力の認定・登録▽施工管理技術者の認定制度——を実施している。

特別な手続きなしにCFT造の建築確認が可能となった。構造設計上の留意点として設計時に充填工法を決定しておくことなどがあり、「指針適合」の技術指導を行っている。耐火設計の実務については「耐火設計指針」のつと技術指導をしている。施工技術の難易度が高いため、当協会では品質確保を図り▽施工会社の施工技術力の認定・登録▽施工管理技術者の認定制度——を実施している。



平成30年度調査研究発表会のもよう



## 2019年度学生募集

日本で唯一の溶接と検査の専門学校  
製造現場の中核となる技術者を育成します。

- 溶接・検査技術科(1年制・定員20名)  
専門知識の学習と実技訓練を行い、溶接及び検査技術の習得を主目的とする。
- 設備・構造安全工学科(2年制・定員20名)  
溶接と検査および計測の専門知識の学習と実技訓練を行い、プラント関係の製作・メンテナンス・工場管理技術者・検査技術者等を養成する。
- 鉄骨生産工学科(2年制・定員20名)  
溶接と検査の専門知識、高度な品質を要求される建築技術全般およびそれに伴う関連資格を取得し、鉄骨生産の総合的管理技術者を養成する。

- 見学日  
2018年 7月30日(月)~8月3日(金)、9月7日(金)、10月5日(金)、11月9日(金)、12月7日(金)  
2019年 1月11日(金)、2月1日(金)、3月1日(金)
- 願書受付(推薦・一般)  
2018年 10月1日~2019年3月8日
- 試験日  
2018年 11月16日(金)、12月14日(金)  
2019年 1月18日(金)、2月15日(金)、3月15日(金)



一般財団法人 日本溶接技術センター

### 日本溶接構造専門学校

〒210-0001 神奈川県川崎市川崎区本町2-11-19  
TEL.044(222)4102 FAX.044(233)7976  
(URL)http://school.jwsc.or.jp/